「こんなはずじゃなかったのに」

いやあああぁぁあああああっ！
ズボッ
痛い！やめてやめてよ！

ああっ

う……ああ！
はあ……っ！

あっあっ！

いぎっ

あっん、やっ、
あああぁ！

なんでこんなこと
あっ…あぁっ！

こんなのレイプじゃない
何…考えて…るのよ！

やめっ！ああっ！
んんっ…ひぐっ！！

ズッジュグム

ズポッ

ズプ
ズプ

ぬちゃ
ぬちゃ

いやあぁぁ
あああ！
ドピュ
ドクドクドク
ドプドプッ
ドピピュピュル

はぁはっ

はぁはぁ

はっはぁ

はぁ…はぁ…最低
こんな、こんなのって

ヒクヒク

どぷ…

私の初めては、何の
抵抗も出来ずに
ムリヤリ奪われ
中出しされて終わった

中庭を歩いていると
ルルーシュにキスを
求められ、私は
またも抵抗しないまま
唇を奪われた

ん…

ここでフェラチオしてくれないか

は？

…カレン

何…言って、授業が始まってるとはいえこんな中庭のど真ん中で

誰が見てるか分からないのにそんなこと出来るわけ…

わ、分かったわよ

だからなんで断れないのよ

冗談だよ

さすがにオレでもそんな度胸はないさ木陰にでも移動しようか

ズイ

ひ！

こんなの…どうしたらいいのよ

簡単だよ…カレン

しゃぶって！

しごいて！

イかせてくれ！

ん…んん

…あ

ぺろぺろ

んむんむっ

ちゅちゅぷ

んむ…あむむ

んっ

んっ

んぶぅ！

んんっ！

くっ…んっ

じゅぶ！

うおっ、カレン
いい感じだ！
そのままロの
中に出すぞ！

びじゅ！
じゅぷ！

うう！

んんん――！

ビュビュ

ドクドク

おぶふぅ！

ううう…うぐ
んんぅぁぁあ

うぶふ！

おえ！

プシャ

ブルルル

ヒクヒク

…っぷは！

どっ

はぁはぁはぁ

うぇぇ

うぅ

あ！

にゅるる

失禁するほど
口で奉仕するのが
気持ちよかったのか

ぐっ

ちがっ…んぁあ！
うぅ…もういいでしょ
フェラは終わったんだから

カレンも気持ちよく
ならないと不公平だろ
後ろからついてやるから
ケツを向けるんだ

一方的に感情を
押し付けて
何、勝手なことを

んんっ
はぁ

ドン

ズブブッ！

いぎっ！

パンパン

んあ！

あっ！

あっ！

あん！

あっ！

あっ！

くちゅじゅぷ

ああああ！

あくっ！んっ！
あぁあん！せめて…もっと優しくし…あっ！
あっあっあっ！
あっあっ！

うっ…カレン！もうイキそうだ

ズブ

ヒィィィ

ブチュ

ブチュ

ブチュ

あっ！

ああああああああああ——！

ドピュッ

ドピュッ

ドピュッ

教室には時間をずらして戻ろう

カレンは5分後だ……分かったな

……ええ

もしかしたらと
思っていたことが
現実になってしまった
私はルルーシュの
中出しを受け
妊娠してしまったのだ

妊娠した私は、
最終的にルルーシュを頼り
クラブハウスへと向かった
その途中で・・・

カレン！

シャーリーに
呼び止められた

妊娠してしまった
私の大きなお腹を見て
絶句していたが

何があったのか
相談に乗ってくれる
と言ってくれ

目立たない場所へと
足を運んだ

私はその気配りが
とても嬉しかった

そう――
嬉しかったのに

ふーん…ルルを誘って中庭でムリヤリセックスしてもらってあげく妊娠したんだ？

カレンって病弱なんじゃなかったっけ？

ガッ

！

シャーリー見てたの？違うのよ、あれはルルーシュの方から！

ガバッ

あっ！

ドサッ

あんたなんか！

ルルが相手するわけないでしょ！

ああっ！

バチ

バチ

バシ

やめてシャーリー！

はぁはぁ

はぁはぁ

あんたみたいな女はこうしてやる

え？

ひっ！

入ったぁ！

おぉ！フィストすげー

ああ！う、腕が私の…私のマ●コに入ってくるぅ！

ひい！

ビクビク

あはは！
するりと入る
じゃない！

ルルのチ●コ以外にも
いっぱいいっぱい
咥え込んでたんでしょ

ゲチュ

ギチュ

ほ、ほんとに違うの
シャーリ…いいっ！

あぁっ！

ビシャー

おおおぉー！
潮吹いたぜ！

はぁっ
はぁっ
はぁっ
これで終わりじゃないからね…カレン
あれを見てから半年間お仕置きしたくてたまらなかったんだから
ゲト
んっ!?
カレンファンの人達お待たせ、この汚いケツ穴にぶち込みたい人、どうぞ
ぬぷ
ぐにぐに
ああぁ！
うおおお——！

オレが！
おれだ！
俺だよ！
っしゃ！
ひぎゃっ！ あああ！
うおっ！カレンさんのケツ穴めちゃくちゃ締まる！やっべ！
あっ！
あっ！
あっ！
くっそ！俺はマ●コ使うからお前体位変えろよ

ああ！

チンポが中でぶつかってる！

ガチュ

チュ

ジュ

あぁん！

うっく、ルルー…シュ

たすけ…て

ド

うっ！

ズリ

うぶんぶ
うぷっ！

ズリ

ルルがカレンなんか
助けに来るわけ
ないでしょ！

グリ

グリ

ルルの名前を気安く
呼ぶあんたの口なんか
ケツ穴でも舐めてろ！

グリ

うっ！

んん

んっんっ
うううー！

!?
くる
スッ
ゲホッ
ゴホッ
ゴホッ
ゴホッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ

口を開けなさいよ！

ぴちぴち

！

ボボボ

んぐんぐんぐっ

おぐっ

うぇ！

ドバッ

ボボボ

ゴク
ゴク

アハハハ！
飲んだ飲んだ

今度からのどが
かわいたら言いなさい
飲ませてあげるから

はぁ

はぁ

はぁ

何…その目？

そういう顔して
ルルの精子を
ねだったんでしょ

生まれてくる子供が
あんたみたいに
ならないよう――

教育してあげる！

ひっ！

ボッ

シャーリーやめて！こんなの最低よ！

うるさい！邪魔するな！

あっ！

あんたのママはね！

ボムッ

ボムッ

自分から肉棒を求める淫乱女なのよ！

ボムッ

ボムッ

チンポ欲しい欲しいって目でうったえてくるの！

精子を注がれることが幸せでたまらない女なの！

ドレ

ドムッ

ごめんね守ってあげられなくて

ドム

ママのアバズレ遺伝子を持ってないようその中で祈ってなさい！

ボム

アハハハハ！

全員で穴という穴に挿入してあげて！

ううう

何本でもいい何回でも何日でもこの肉便器にブチ込んであげて！

ズブズブ
あぐっううう
うぁぁぁあ！
んっんっ
あっあっ！
ズブズブ
あんあん！

ぶぶぶぶっ

ぶぶぶぶっ

うぅぅぅ！

うぉっ！

出る出るっ！

んぐぐっ！

ドピュッ

ドピュッ

ドピュッ

まだまだチ●ポ入れてあげてよ！

あ…

フフフッ

ズッ!!

ズポ

あ…あ？

やっぱ、どう見ても
この体を放置なんて
出来ねーよな

あ？

ギチ

ギチ

あ…あんたたち
カレンのファンでしょ
だったらカレンに…

だからそんなの
関係ねぇっての！

ああっ！

ドサッ

ああああっ！

ブルッ

ドピュ

ビクビク

ドロ

次はマ●コに入れてやるよクククククク

ガクガク

こ、ここはルル専用なの！

あんた達はあの肉便器を犯しなさいよ！

ひぎっ！

ズボッ

いやぁ！痛い痛い！
あああああ！

やあっ！

うぉっ処女かよ！
こいつのマ●コ
締めつけすぎ！

ルルのじゃない
チ●ポが入ってくる！

んぶんぶっ
んっんっ！
ひっ！ぎっ！
ううっ！んっ
あっあぁー！
パン
ズズ
パパ
パパ
ズズ

ああああ
ドピュ
ドクドク
どぴゅどぴゅ

ああああああっ
ドピュ
ドピュ

その後も執拗に
犯されていたようだけど
あまり覚えていない

ルルーシュが助けに来て
くれたらしい
でも、精液まみれの
私を見て幻滅するだろうな

そう思ってると
私に挿入されてたものが
抜かれ、嫌な体温も
離れていって温かく包まれた

意識が少し覚醒した

私はルルーシュに
抱きしめられていた

何度も何度も
泣きながら謝っている

前にレイプまがいのことを
したことを謝って
いるのだろうか

そういえばムリヤリだったけど
ルルーシュはなんだか
いつもこんな顔だったな

そっか…ほんとに私のこと
好きで後悔してるんだね

抱きしめてくれる体温も
彼の目から流れる涙も
とても温かったから

…だから私は

そう言った

始まりはあの日

いきなりの告白に
戸惑ってたカレンだったが
もちろん断られた

少し、いやかなり
落ち込んでしまったが
会長からカレンが生徒会に
入ることになったと聞いて
心が弾んだ

カレンの歓迎パーティで
リヴァルとシャーリーが
シャンパンを開ける開けないで
もめてしまった際
結局栓が抜け、飛び出した中身を
カレンが浴びてしまった

シャワー室で体を洗うカレンに
着替えを持っていったとき
ここで間違いを犯した

男としての衝動が抑えきれず
言ってしまったのだ

『言うことを聞け』、と

人外の力『ギアス』を使って。

カレンをとにかく自分のものに
したかった

後で解除すればいいという
浅い考えも持っていた

それが間違いだったと
その後、中庭で気付かされた

彼女は本当にこばまない
口ではなんと言っても
体が拒否しない

俺は自分を偽って
高圧的な態度で
その迷いを押し込め
カレンに欲望を押し付けた

それからカレンは学校に
来なくなった
当然だろう

2回も身勝手に犯されれば
目の前から消えるのは当たり前だ

それから死にたくなるほど
自分の最低さとカレンのことばかり
ぐるぐると考える日々が続く中

カレンを学校で見たという話を
聞いた、しかもあのシャーリーに
連れられて

シャーリー・フェネット

同じ生徒会の
メンバーであるが
俺に対して異常な
執着を持っている

俺がギアスを使ったのは
カレンに対してだけだが

ゲットウ壊滅戦の折
俺が敵に見つからなかったのは
シャーリーの電話を着信拒否
してしていたからだ

あのときコール音が鳴り
兵士達に見つかっていれば
ギアスを使い
殺すしかなかっただろう

元凶となったクロヴィスも
殺していたかもしれない

もしシャワー室や
中庭での出来事を
シャーリーに知られていたら…
いや、知っているだろう

迂闊だった
カレンのことを考えるあまり
シャーリーを警戒することを
失念していた

俺がどうなろうと
カレンには合わせちゃ
いけない相手だ

シャーリーが
俺を欲しいというなら
それで解決するはずだ

俺はスザクにギアスと
カレンにしたことについては
相談していたので
一緒に探してもらい

部屋を見つけ出し
ドアをブチ壊して
助けに入った

そこで犯されるカレンを
目にして半年前の
自分の卑劣さを知った

スザクが男どもを
蹴散らしていて
俺も殴らずには
いられなかったが
きっと俺が殴る相手は
自分自身だろう

それはスザクに話をしたとき
殴られたことで分かっている

俺はシャーリーを含め
ギアスを使って記憶を消そうと
思ったがそれもやめた
スザクにも止められた

これ以上、人でなくなれば
カレンの側にいれなくなる
俺がカレンを守るしかないのだから

俺はカレンの元へと向かい
謝ることしか出来なかった

そんな無様に泣き謝ってる俺を
カレンは抱きしめて

「いいよ」

と言ってくれた
こんな自分に温かい言葉と
温もりを与えてくれた

俺はカレンを守るために
世界を変えてやろうと決めた

「ルルーシュ・シュタットフェルトか」

5年後、私はルルーシュに会った
あいつはカレンを守ると
決めた通り、カレンのまわりに
生き易い世界を作っていた
頑張っているようだ

当時、私はルルーシュに
罪悪から逃れるために
自分にギアスをかけて
カレンにギアスをかけたことを
忘れることも出来ると
言ったのだが
それではカレンに細かく注意を
払えないと罪を捨てない決意をしていた
ご立派なやつだ

「カレンは確かに言うことを
聞いてしまうが、不満があれば
不満な顔をするし、口は自由だからな
屋敷の範囲で生活するのには
困らないよ」

生活を共にすることで
対処方も確立したようだ
しかし、と付け加えて

「娘におもちゃをせがまれると
買ってしまうのが難点だけどな」

「じゃあファーストフードでポテトを
勧められたら間違いなく買ってしまうな」

「C.C.…お前、まだピザばかり
食べてるんじゃないだろうな」

「悪いか!太ってないぞ!」

ちょっとテンション上げて
抗議してみた
正直、少し下っ腹が怪しい

お腹をさすってると
ルルーシュは笑っていた

「なんだ?」

「いや、平和な光景だと
思ってな」

「ふん!」

実際ブリタニアは思いのほか
いい方向へと進んでいた
スザクとユーフェミアが
よくやっている

コーネリアもユーフェミアの押しに
折れてしまいその勢いは
加速度的に増した

まぁ難関なのは
ブリタニア皇帝なのだが
世界の勢いにはかなわないだろう

「…お前の願いってやつを
叶えてやれなくて
すまなかったな」

「何をいまさら」

ルルーシュはカレンと
生きることを決めた
そこに入る余地なんかない

ルルーシュは偽りの幸福で
満足している
私はルルーシュを見た

「んっ.ああ、分かってるさ
カレンがあのとき
俺の側にいてくれたのは
単純にあいつらよりプラスよりに
いたからだろう
絶対的に見ればマイナスの
場所に配置されてたろうさ」

少し思い出し自虐に入ったので
しまったと思いフォロー

「まぁ、カレンをさっき
ちらっと見たが
幸せそうだったよ
うん、幸せそうだった
この上ないくらい幸せそうだった」

「はいはい」

「そういえば娘の名前は
なんていうんだ？」

「ああ、俺は最初2人の名前を合わせて
カレーシュにしようって言ったんだけど
大反対された」

「そりゃ反対だな
生まれたときから中年のおっさん
みたいな匂いがしそうだ」

小学校あたりでその単語を覚えた
やつからいじめられそうだし

「だからナナリーにした」

「・・・ああ、お前の妹だったか
ブリタニアの日本侵攻のとき
亡くなったとかいう」

それからこいつは無気力に
生きてきたとか
言ってたんだったか

守るべきものがあれば
こいつは全力で行動するんだろう
今は幸せなわけだ

「カレンにそのことをいったら
いいよって言ってくれたからな
・・あ、もちろん不満顔なしでな」

「はいはい、ごちそうさまなことだ」

「そういえばC.C.、何か
用事があったわけじゃないのか？
ただ様子を訪ねに来たわけじゃないんだろ」

「どうかな、ま、暇つぶし程度だよ」

と意味もなくクールを装っておく
そんな言い方をされると

「様子見に来たんだよ！悪いか！」

とは言えないし

「・・・暇つぶしか様子見に来たのか
どっちなんだ」

声に出しちゃってるし！

「ま、どっちにしても
顔馴染が会いに来てくれるのは
嬉しいもんだよ」

「ふん、まぁまた来るさ
それと、時間がカレンを
癒してくれるわけじゃない
それを忘れるなよ」

「分かってるさ」

私はとりあえず
かっこよさそうなセリフを残して
シュタットフェルト家を後にした

しかし

「こんなはずじゃなかったのに」

別の結末がヴィジョンとして
頭によぎった私はそう呟いたが

その言葉と映像は
自分の中で反芻されずに
どこかへ消えていった

それは
どこか別の平行世界での
出来事だったのかもしれないが
C.C.はもう思い出すこともなかった

足取りは軽い
幸せオーラを浴びすぎて
しまったみたいだ

またいずれルルーシュに
会いに行こうと思うが
ピザの摂取量を減らそうか
真剣に悩んでしまう

うーむ、考えがまとまらない
ピザを食べて栄養を補給しよう
それからでも遅くない

私は鼻歌を歌いながら
ピザ屋さんに向かった。

END

『こんなはずじゃなかったのに』
お買い上げありがとうございましたー！！
☆
コードギアスこれが出ることには最終回も
放映済みですね。
楽しみなような怖いような。
☆
兎にも角にもまずはシャーリーファンに謝りたいです。
すごい子になってしまいました。
お腹蹴ったり踏んだり
描きながらちょっと引いてました。
じゃあ、ネームを書き換えろよってな話なんですが
流れるようにシーンが出来たので仕方ないです。
☆
最初のコンセプトとしてはルルとカレンのラブラブ話を
作ろうって感じだったんですが、
人の領域を越えた力を使った人間を
素直に幸せにするのもどうかなー、と思って
わけわからない感じになっちゃいました。
エピローグを真剣に読んだ方すいません。
辻褄合わせの応酬ですね。
個人的には気に入ってはいるんですが、
今度はC．C．ファンにすいませんっていう展開ですね。
出るキャラ全員、自分の中の設定になってるという
同人らしいといえば同人らしい作品かもしれません。
☆
今回はオールカラーにしたんですが
どうだったでしょうか？
感想もらえると嬉しいです。
☆
ではでは、長々とお付き合い頂き感謝です。
サークル『シンヤんち』のシンヤでした。

まだ大丈夫だよな？
んと・・・下っ腹

「こんなはずじゃなかったのに」